

	実態と課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> TOFASの結果、「語い」「書き」の単元の正答率が全体平均より特に高く、これまでの学習の知識が定着していると考えられる。 一方、「読み」の単元の正答率が全体平均よりもやや低く、伸びしろがあるといえる。 5年生の学習では、「漢字の書き」の習熟度に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章や、物語的文章の読解において叙述を基にして読み取る力を高めるために、文章中のキーセンテンスや登場人物の様子や心情が分かる部分にサイドラインを引く活動を積極的に設定する。 漢字ドリルを基にした漢字小テストを実施し、合格点を取ることができるよう粘り強く指導する。家庭学習での練習とともに、漢字を覚えることができるよう、学び方を指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 各単元テストの結果から多くの児童が9割の内容を理解している。 4学年の既習事項である都道府県の名称、位置など、基本的な知識が定着していない児童が多い。また、世界の国の名称や位置などは、児童によって興味や関心、基本的な知識に大きな差がある。 グラフの情報を正しく読み取り、そこから考察できる力が少しずつ身に付いてきている。 授業中に扱った用語や意味を理解することはできているが、それらの用語を使って説明したり、文章にしてまとめたりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳を積極的に活用し、名称や位置を確認できる回数を増やす。また、国旗クイズや本などを紹介し、外国への興味関心も高める。 グラフを読み取るポイントを提示し、教科書に書かれているグラフには必ず触れるようにする。 学習のまとめをする際に、教師がまとめたことを文章にするのではなく、児童と一緒に考えたことを黒板に書くようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> TOFASの結果、「計算のきまり」の単元の正答率が全体平均よりも特に高く、これまでの学習の知識が定着していると考えられる。 一方、「かけ算」「わり算」の単元の正答率が全体平均よりもやや低く、伸びしろがあるといえる。 5年生の学習では、算数の知識・技能を概ね身に付けている。「小数のわり算」は、他の単元よりも定着度が低い。 思考力・判断力・表現力については、知識・技能よりも習熟度が低い。特に「小数のかけ算」「体積」の学習で課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算技能の定着のために、授業の最初の5～10分や朝学習で計算プリントに取り組むようにする。 「小数のわり算」については、筆算の仕方を正しく理解できていないことが考えられる。2学期・3学期は、家庭学習を含め、繰り返し学習に取り組むようにする。 算数の学習では、既習事項の生かし方を考えたり、解き方を図・式・言葉などさまざまに表現したりする活動を設定する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活や既習事項からつなげて想像し、問題を見いだす事ができない児童が多い。 実験の条件制御については、友達の説明を聞くと分かる児童が多いが自分で考えることは難しい。また、実験の際に条件制御を意識して行っていないこともある。 学習内容について授業内では分かっているが、あとから振り返ると分からなかったり、既習事項と混ざっていたりすることもあるので、定着までに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活や既習事項から問題を見いだせるように、児童に疑問をもたせられるような声掛けを行い、疑問を問題として設定できるように文型を用いるなどして指導する。 条件を制御して実験が行えるように、実験などの各場面で変化している条件と変化していない条件を意識付けるような声掛けを行う。 予想や仮説を基に実験方法を考え、予想や仮説が正しければどうなるかの想定をする場面などを重点的に指導することで、科学的な問題解決の流れを定着させる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 自分の歌声の響きを意識して、意欲的に歌う児童が多い。しかし、二部合唱で歌声の重なる心地よさを感じるには至っていない。 楽器においても、意欲的に取り組んでいるが、旋律を歌うように表現したり、楽器のもつ一番よい音を引き出す奏法について追究したりする意識がまだ低い。 音楽を鑑賞して、感想や想像したことを書いたり発言したりすることができる。その理由を音楽から見付けられるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な二部合唱曲で、相手のパートの歌声を聴きながら、自分のパートを歌う経験を増やし、正しい音程感を身に付けさせる。 よい音を範奏やCD音源で聴かせたり、互いの音をじっくりと聴く場面をつくったりして、音に対する感覚を磨くようにする。 音楽を聴いて感じ取ったことと、音楽を形づくっている要素とを結び付けて考えられるように、板書やワークシートを工夫する。 協働的な学習や個別最適な学習をおこなえるよう、学習の形態を工夫する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 前学年の経験を生かしていろいろな題材に積極的に取り組む児童が多いが、既成のデザインにとらわれ発想が広がらなかったり、活動が停滞したりする児童もいる。 安全面に注意しながら、用具を扱える児童が多いが、個人差がある。また様々な道具になってきて、場面に応じて使い分けをすることができる児童が増えてきた。 自分の作品に自信がなかったり、良さが捉えられない児童もいるので、自分の活動を振り返り、制作の見通しをもったり、友達や自分の作品のよさを見付けたりし、自己肯定感や達成感を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の工夫のきっかけとなる掲示物を活用したり、材料や用具・表現方法の選択の幅をもたせたりすることで、より自分の作品のイメージを明確化していけるよう支援する。 短時間のスケッチを活用し、用具についての興味と理解を深め、道具の特性を再確認させる。また作業動線を確保し安全面に配慮する。 振り返りカードを記入することで、見通しをもった活動を意識させる。また、作品ファイルを用いたポートフォリオを作成し自分の作品のよさを見付けさせたり、児童の気付かない良さについては、積極的に声かけをしたりして、自己肯定感を高める。友達の作品に対しての言葉かけのマナーやポイントなどもその都度例示する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果、「20mシャトルラン」「立ち幅とび」は、全国平均を比較的大きく上回っている。 一方、「握力」「50m走」は全国平均を上回るものの、比較的差が小さい。 運動に意欲的に取り組む児童は多いが、集団で関わり合い、教え合ったり、考えを伝え合ったりすることに慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 持久力や跳躍力が高いのは、マラソン旬間、なわの日の取り組み、積極的な校庭での運動遊びの成果と考えられる。引き続き取り組めるように支援する。 「体力を高める運動」で、ペアやグループでの力試しの運動を積極的に取り入れる。「短距離走」で、いろいろな走り方を体験させ、よりよい走り方を工夫できるようにする。 集団で関わり合う時間には、話し合いの観点を伝え、何度も繰り返し行う。